



までいに生きる

真新しい木の香漂う 助産院で 初めてのお産
陣痛は 長くて 苦しく 不安もあった

助産師の支え 夫の共感と寄り添いが 力となり
向き合った手の中に 女の赤ちゃんが 生まれおちた
母になった人は その瞬間 静かに 子を見たという
結婚し過ごした 飯館村での八か月

夏 牧草地で栗の木陰にたたずみ ヨガをした
雲が近く 空は美しく そこはまるで 桃源郷

秋 ふかふかの落ち葉の上を愛犬と散歩

冬 真つ白な雪が舞い 村の正月は簡素でも豊かだった
宝物のような時間は 心の奥に しまっている

雪が解け 北国の青い草の上を

娘は小さな足で駆け回るだろう

夫婦で守り育ててゆこう までいに ていねいに

※までい…「ゆつくり」「ていねいに」という意の福島県飯館村の方言。
手で大切に物をくるむような気持ちを表す。

みやざき まさこ●写真家。写真集に『Mother』（医学書院）、『NICUのちいさいのち』（メディカ出版）など。
4月15日（月）～16日（火）文京区シビックセンター1階ギャラリーシビック・展示室1Bにて写真展「Mother いのちが生まれる」を開催。
入場無料 ＊両日ともに写真の解説タイムがあります。